

ペドラブランカ自然保護区支援連合

生産者・消費者・流通による包括的なアグロエコロジーネットワークの構築によって行うブラジル・ペドラブランカ山系の生態系保全活動

活動地域  ブラジル

ひろげる助成

3年目

実践

SNSフォロワー **3,615人**

新たな有機認証取得農家 **12世帯**

今年度計画の達成度 **70%**

目標達成度 **85%**



新型コロナウイルス禍でも農業は続く

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

新型コロナウイルス禍で人の動きが制限されたが、農業は続けなければならぬ。援農に人が集めにくく、農家同士の連携協力も困難になってしまった。

■工夫した点

消費者と農家の協力関係が壊れないように、新型コロナウイルス禍でも配慮しながら行える交流を積極的に企画した。

課題

国策から保全型農業は優先順位が下げられつつある。そんな中で市民発の草の根の運動で循環型農業を実現すること。

目標

ペドラブランカ山系に保護区が制定されること、保護区の外にも環境保全型の伝統農業を実践する二次林的バッファー地帯が形成されること、及びそれを通じた地域の連携。

活動内容と成果

世界遺産でもあるイグアスの滝の水源の一つでもあるペドラブランカ山系において、下記の活動を行った：

- ①環境保全型農業を実践する農家46世帯の一覧化、可視化。参加型アグロエコロジー認証制度の実現
- ②それら農家世帯が互いに技術を学び、相談・援農・技術交換を進められるネットワークの形成
- ③消費者グループの組織化及び農家ネットワークとの融和を目指し、オンラインで総勢154人からなるネットワークの形成
- ④州で保護区を制定するための議会陳情、提言書の提出



ほかし肥料のつくりにかたワークショップ

全助成期間の活動を振り返って

ペドラブランカ地方で持続可能な農業が営まれることはブラジル南部の水源を守ることであり、流域全体の自然を保護することにつながる。それが経済的に成立し、仲間がいて、消費者の支えも得られ、そして行政の後押しが得られる。そんな包括的な支援体制を小規模ながらも実現できたことが本プロジェクトの成果といえる。新型コロナウイルス禍で規模の拡大は難しくなったが、小さな規模の中で強い連帯感をつくることには成功した。



新型コロナウイルス禍前は盛り上がりなみせた有機生産市

Praça Dr. Paiva de Oliveira, 513 - Centro, Caldas - MG
37780-000 Brazil
HP : <https://www.facebook.com/aliancapelapedrabranca/>



今後の展望

活動期間中に近隣の大学との交流、行政の観光課とのエコツーリズムの協働プロジェクトが進むなど、芽づる式に新たな活動が生まれつつある。その縁を有効活用し、助成が終わった後も発展が続くことが期待される。